

# みらいん

2014  
4月

## わたしたちの復興

未来に向かう皆さんからのメッセージ



移転予定地の周辺ガイド  
これから住む「まち」

まちの語り場／被災地レポート／続ける支援  
読者からひとこと／住まいのコラム／表紙のひと／記憶の写真館



「みらいん」は、  
震災からの復興に向けて  
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の  
今を結ぶ情報紙です。

# 芦の口地区

今後の住まいの選択肢として、防災集団移転促進事業による移転や、復興公営住宅への入居などがあります。ここでは、復興公営住宅の整備が進む地区の様子と、周辺にお住まいの方の声をお届けします。



## まちに住むひと

古くから地域に住む人々と  
新たに移住してくる人々。  
それぞれが皆、協力し合い、  
新しいまちの歴史をつむぎます。



じゃぬま  
**蛇沼 孝さん**  
芦の口復興公営住宅支援者連絡会会長  
西多賀地区社会福祉協議会会長

「2013年9月に芦の口復興公営住宅支援者連絡会を立ち上げました。地域のマップ作成や研修会を通して、入居者を支援する準備を重ねています。たくさんご苦労があったでしょうから、皆さんには安心して暮らしてほしいです」



**佐藤好信さん**  
芦の口羽黒台町内会会長

「昔から住民が一体となり、夏祭りや花壇整備、サロン活動など、年間を通じさまざまな行事を行っています。引っ越された方から「芦の口に来て良かった」と言われるように、住民同士が仲良く積極的に交流していきたいと考えています」



**千葉美千子さん**  
西多賀地区民生委員・児童委員

「芦の口地区の民生委員をつとめています。昔ながらの街並みが残る環境の良い地域で、住民の皆さんはとても仲が良く、とてもまとまりがあります。移転されてきた方たちが安心できるよう、一生懸命サポートをしていきたいですね」



**松永なおみさん**  
八木山地域包括支援センター所長  
太白区松が丘33-22  
022-229-0811

「芦の口地区には明るい方々が多く、本当に住みやすいエリアですね。ご高齢の方を中心に、健康や福祉、介護などのご相談を承っています。厚みのあるバックアップを心掛けますので、困ったことがあればいつでもご相談ください」

## まちの店・施設

昔ながらの懐かしい街並みは  
自然も多く散策も楽しめます。  
幹線道路も近くアクセス良好。  
安心と便利さが共存する地区です。



**今野豆腐店**  
太白区西の平1-17-25  
022-245-0610  
営業時間/7:00~18:00  
休業日/日曜日

長年地元の方に愛されている、看板のない豆腐店です。戦後間もなく創業し、今は2代目のご主人が味を守り続けています。お店で揚げた厚揚げや油揚げのほか、がんもどきや豆乳などを販売。一番人気は木綿豆腐です。



**芦の口コミュニティ・センター**  
太白区芦の口4-1  
022-308-7865  
利用時間/9:00~21:00  
利用申込方法/月・水・金曜日10:00~12:00に直接センターへ

1995年に開館して以来、地域内のサークル活動や会合の場として、多くの皆さんに利用されています。老人憩いの家、コミュニティ防災センターも併設。毎年10月には「芦の口コミセン祭」が開催されています。



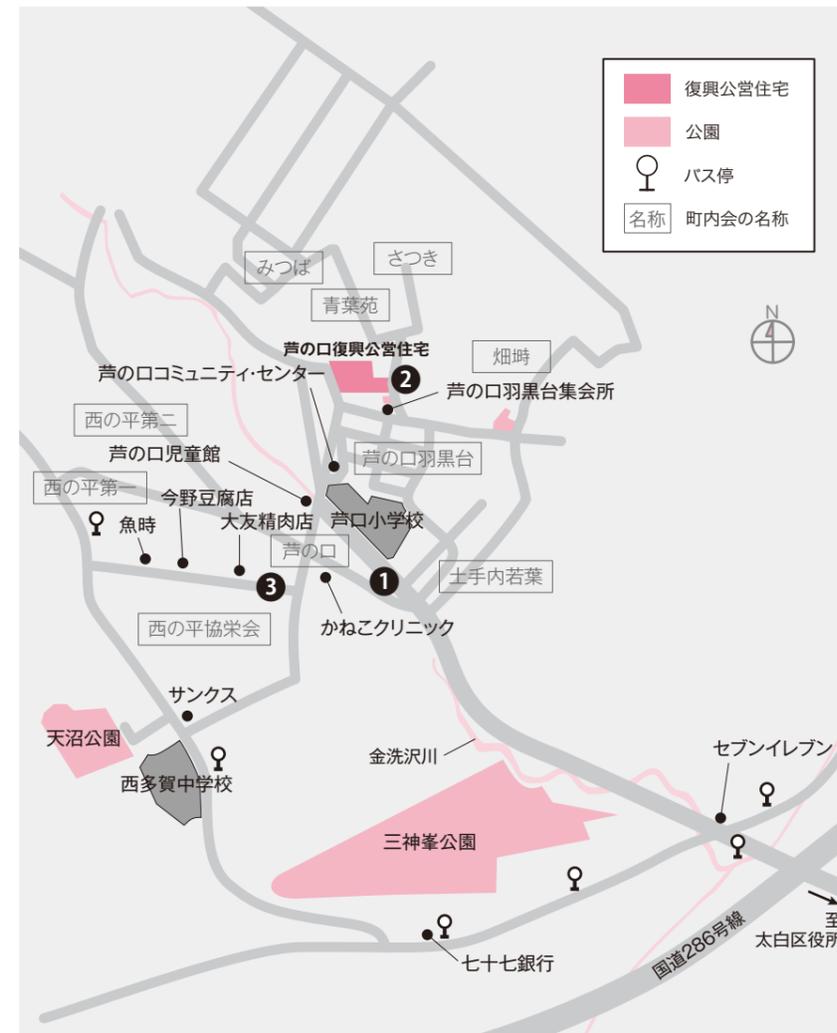
**芦口小学校**  
太白区芦の口1-1  
022-246-0858

「早ね 早おき 体操で 心と体 すっきりと」をスローガンに学校と家庭、地域が一体となり、元気な児童の育成に力を注いでいます。毎週金曜日の朝には地域住民とともに「金曜ラジオ体操会」を実施し、地域と交流を深めています。



**天沼公園**  
太白区三神峯2  
022-247-1111  
(太白区建設部公園課)

「地域の庭」造りを理念に、周辺住民の身近な憩いの場として1995年に整備されました。農業用ため池を観賞用に改修し、木橋やあずまやなどを設置。初夏には地元中学校で育てたホルタルが舞う、親水公園として親しまれています。



## 緑と笑顔があふれる住宅街

芦の口地区は、西多賀、緑ヶ丘、八木山地区に囲まれた緩やかな丘陵地の閑静な住宅街です。名取川水系に属する金洗沢川が流れ、三神峯公園や天沼公園のほか保存緑地が点在する緑豊かな地域でもあります。

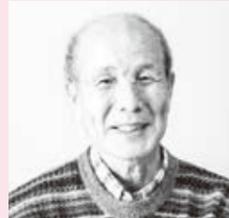
太白区役所まで約二・五キロ、地下鉄東西線が開通する二〇一五年度中には、芦口小学校で止まっている都市計画道路「八木山長町線」が動物公園駅まで開通し、バスの運行も予定されるなど八木山地区や長町地区とのアクセスが格段に良くなる地域です。

芦の口復興公営住宅は、二棟三十九戸の集合住宅です。すべての部屋が4DKと、広い間取りが特徴です。また、二号棟の十五戸はペット飼育可となっています。地元の町内会や福祉関係者は、新しい住民の方々に早くなじんでもらえるよう、半年前から連絡会をつくり、協力体制の整備や生活に役立つマップづくりなどを行っています。

民間企業の社宅であった二棟の外装、内装はリフォームされました。地元では四月から始まる新しい住民の方々を心待ちにしています。

## まちに住むひと

山と川が近く自然豊かな土地柄ゆえ、心の広い住民が沢山住んでいます。ポジティブ・アンド・アクティブ、前向きで行動的な愛子の皆さんです。



### 菅井長一さん

上町町内会連合会会長  
上町南町内会会長

「旧宮城町の中心部であった愛子地区は、青葉区広瀬地域の中心として生まれ変わりつつあります。生活環境が整ってきても、町の周辺は自然に恵まれており、ホタルの舞う、安心安全に暮らせる地域です」



### 根本武久さん

上町西町内会会長

「市内中心部にも短時間で行けますし、秋保温泉や作並温泉にも近いです。愛子駅や総合支所、文化センターなど歩いてまわれる範囲にあるのも利点でしょう。近年は若い世代が増え、子育て環境も整っています」



### 松木康明さん

上原市営住宅自治会会長

「新たな住民となられる皆さんを万全なサポートで迎えるため、当自治会も関係機関や近隣町内会と会合を重ねています。敷地内には快適な集会所があり、さまざまな行事に使われています。有事のための備蓄倉庫も整え始めています」



### 沼田初美さん

上町西地区民生委員・児童委員

「昨年12月に民生委員を増員し、新たな住民の皆さんを迎える準備を整えています。行政や関係機関の方々と協力して健康教室やサロン活動に取り組み、住民の方の見守りに努めています。子育て支援の会もお手伝いしています」

## まちの施設

JR仙山線やバスの便も豊富で利便性に優れ、行政機関、金融機関なども集中しています。大型ショッピングセンターや各種店舗の出店も増え近代的な街の様子を見せています。



### 愛子駅 (JR東日本仙山線)

青葉区愛子中央1  
接続交通機関/仙台市営バス、愛子観光バス

1929年の開業以来、通勤通学の利用者でにぎわっています。仙台駅までは、1時間に3~4本の運行。所要時間は普通列車で24分、快速を利用すれば19分です。春には、駅前広場のシダレザクラが乗客の目を楽しませています。



### 青葉区役所宮城総合支所

青葉区下愛子字観音堂5  
022-392-2111 (代表)  
開庁時間/8:30~17:00 (土・日曜日、祝日、12月29日~1月3日を除く)

青葉区役所の市民サービスを愛子地区で提供しているのが宮城総合支所です。各種証明書の発行をはじめ福祉や年金の相談など、生活に直結した相談窓口を設けています。周辺には、郵便局、銀行、市民センターがあります。



### 広瀬市民センター・広瀬図書館 広瀬文化センター

青葉区下愛子字観音堂5番地  
022-392-8401 (施設利用)  
広瀬文化センターは2014年8月1日(金)~2015年3月31日(火)までホール改修工事予定。

市民センターは住民の皆さんの日常を細やかにサポートすることに努め、文化センターは、住民の皆さんに「晴れの舞台」を提供する場として活用されています。いずれも新旧住民の皆さんのよき交流の場となっています。



### 生鮮食品移動販売車

022-392-6036 (有限会社ワタショー)  
移動販売営業/  
毎週月・木曜日13:00~13:20

仙台高等専門学校近くに立地する食料品店の食品移動販売車が、定期的の上原市営住宅敷地2カ所に停車し営業します。お客様が希望する食料品や一部日用品を次回持参することも可能。「動くスーパー」と称されるほど品揃え豊富です。



これから住む「まち」②

## 上原地区



都市部と山紫水明の里が接する地域

青葉区の西部、広瀬川南岸の段丘に位置する愛子地区は、一九九二年愛子バイパス(国道四十八号線)の供用で都市部とのアクセスが向上し、車で十五分ほどで移動できるようになりました。JR仙山線や市営バスのほか民間の路線バスが運行し、交通の便に恵まれています。子育て世代の世帯数も多く、保育・幼稚園から高等専門学校まで教育機関が整っています。学区の小・中学校は児童生徒数が千人を超え、宮城県内でも生徒数の増加が著しい地域です。また、昔からの繋がりが深い三町内会(上町西・東・南)が独自の「上町町内会連合会」を組織し、季節ごとの行事を盛んに行っています。

「カッパダ川」を地域の愛唱歌とするなど、豊かな自然と歴史に恵まれた地域を新旧住民が大切にしながら、さまざまな活動や勉強会で交流しています。

上原市営住宅敷地南側に建設中の上原復興公営住宅から、宮城総合支所周辺の商業施設などが立ち並ぶ地域までは徒歩十五分ほど。上原復興公営住宅には今年七月八月頃に入居できる予定です。

# まちなりの語り場

宮城野区

## 中野小学校区 復興対策委員会

中野地区四町内会(港・蒲生・西原・和田)が丸となり、復興に向けた活動を行っています。

三月二日(日)定例会議

内容

●復興事業局から説明と報告

当日の様子

復興事業局から、防災集団移転促進事業による移転先ごとの意見交換会について報告がありました。今年のお盆前には移転先ごとの宅地決定ができるように準備を進めていく予定が示されました。また、蒲生北部地区土地区画整理事業に対する意見書が宮城県の都市計画審議会得不採択となったことを受けて、国へ事業の認可申請を行ったこと、報告がありました。



問い合わせ先  
委員長 高橋 実 022-258-3068  
定例会議  
毎月第1日曜日 16:00~  
高砂市民センター2階会議室

宮城野区

## 南蒲生復興部

個々の生活再建と復興を迅速に進めるため、南蒲生独自の復興まちづくりを進めています。

二月二十日(木)定例会議

内容

●津波避難訓練アンケート結果について  
●二〇一四年度活動計画案について

当日の様子

今年一月に実施された津波避難訓練のアンケート集計結果について、避難場所までの到達時間や、避難手段などの各データが公表されました。また、二〇一四年度の活動計画について、津波避難タワーなどの避難施設や避難道路・雨水対策などについて検討することが報告され、さらに「夏祭り(仮称)」開催における農産物の販売計画なども報告されました。



問い合わせ先  
代表 芳賀 正 080-1663-7382  
定例会議 毎月第3木曜日  
合同役員会 毎月最終日曜日  
岡田会館

若林区

## 荒浜移転 まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。

二月二十八日(金)定例会議

内容

●仙台市との話し合いの報告  
●グループ(共同)発注の勉強会実施について

当日の様子

二月二十七日(木)に仙台市と協議会役員の話し合いが行われ、集団移転先に荒浜の人々が集まれる場所の整備希望や、集団移転先の土地価格上昇に伴う無償借地期間短縮への懸念などが伝えられ、市に対応を求めたことが報告されました。また、住宅建築のグループ(共同)発注の勉強会を実施し、具体的に進めていくことなども話し合われました。



問い合わせ先  
代表 末永 薫 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)  
定例会議  
第2・4金曜日 19:00~  
サンピア2F 会議室4

若林区

## 荒浜再生を願う会

荒浜に戻って文化の再生を目指す住民有志が中心となって活動しています。

二月十九日(水)定例会議

内容

●荒浜フォーラムについて協議  
●事例報告

当日の様子

第三回の荒浜フォーラム開催について支援団体と協議を行いました。開催時期は六月の土・日曜日を予定し、今回も大学教授など災害や復興の専門家を招いて行うこととなりました。また、兵庫県の被災者復興支援事業で通称「移動井戸端会議」の運営事例や名取市閉上地区の近況などが報告され、荒浜地区の復興に関して活発な意見交換がなされました。



問い合わせ先  
代表 貴田 喜一 090-8254-4270  
定例会議  
毎月第2日曜日 14:00~  
深沼海岸旧バス停前 里海ロッジ

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

若林区

## 明日の三本塚を 考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。

二月二十二日(土)現地見学会

内容

●再建中建物の見学会

当日の様子

三本塚現地で自宅再建中の佐藤さん宅にて見学会が実施されました。また建築中の家の中では、住宅の気密性に関するパネルなどが展示されて、訪れた方々は興味深く見学していました。  
三本塚ではこれからも数軒が新築、リフォームされる予定で、年内には、震災前の約半分にあたる五十軒程がふるさとに住まいを再建することになります。



問い合わせ先  
代表 小野 吉信 090-3122-4843  
定例会議  
会議、学習会は自由参加、随時開催

若林区

## 荒浜復興公営住宅 (戸建) 推進協議会

戸建の復興公営住宅を希望する方々の勉強会です。

二月二十四日(月)定例会議

内容

●意見交換

当日の様子

前回配布された東松島市の戸建災害公営住宅の資料をもとに、個別事情などを踏まえた間取りのあり方について、各々から意見が出されました。「通常時は十分な広さであっても、子どもや孫が帰省した際などには、泊めることができなから、もうひと部屋多い設計を希望します」などと具体的な意見が出されて、参加者は真剣に聞き入りました。



問い合わせ先  
代表 渡辺 勝江 (問い合わせがある場合は直接定例会場においてください)  
会合は随時開催  
荒井小学校用地仮設住宅集会所

### 仙台市からのお知らせ 被災した学校の今後の方針について

東日本大震災の津波により大きな被害を受けた中野小学校、荒浜小学校及び東六郷小学校は、現在、他校に併設して授業を行っています。3校とも震災後児童数が減少を続けており、今後児童数の増加も見込めない状況です。  
このため、仙台市教育委員会では、3校の今後のあり方につきまして保護者や地域の皆様と協議を重ねてまいりました。各校に関する状況をお知らせします。

- 中野小学校** 平成27年度末(平成28年3月末)に閉校することが決定しました。なお、児童の移転先が多数の学区に分かれることなどから、特定の統合先は設けないこととします。
- 荒浜小学校** 平成28年4月に七郷小学校に統合する予定です。
- 東六郷小学校** 将来統合したいという教育委員会の案をもとに、保護者と統合時期に関する協議を行っています。

問い合わせ先 022-214-2162 仙台市教育委員会事務局学事課



※記載している内容は、各開催日現在での情報です。最新の情報については各団体へお問い合わせください



おかれた状況を受け入れて

はなぶさ  
英 安子さん (左)  
永岡 敏子さん (右)

自分なりに生き方を変えて、仙台人になる！青葉区の息子宅に永住すると決めました。福島交流会やオカリナ演奏、新たな地域の方々との交流を楽しみます。(英さん) / 福島県から家族7人で仙台市に避難しました。3年経ったからこそ、気持ちが揺れ動いている自分に気づきました。ふるさとの人々の輪と、自分の思いを吐き出せる場に感謝です。(永岡さん)

離れていても心はひとつ  
とうかいりん えい き  
東海林 栄喜さん

災害危険区域の若林区藤塚の老人クラブ「貞山会」は1月の総会で活動の継続が決まりました。茶話会や旅行は今までどおりに開催しますので、既に転居された方も、これから移転される方も、是非、参加してください。懐かしい顔と共に楽しいひとときを過ごしましょう。



# わたしたちの復興

震災から4度目の春を迎えて、被災された皆さんの、変わり続ける日々の暮らしと今のお気持ち、そして同じ境遇の方々へのメッセージをいただきました。



地域の活性は農業の再生から  
鈴木 保則さん

若林区井土の農家が立ち上げた農事組合法人「井土生産組合」で代表理事をしています。新規事業にチャレンジするわけですが、昔からまとまりの強い井土の地域性を活かして、さらに人と農地のつながりを深めるように、新しい農業の姿を都市部へ発信していきたいです。

人生楽しまないと  
あんかい  
安海 こう子さん

石巻市で被災し、仙台市に来ました。同郷の方との交流サロン、書道教室などで毎日出歩いています。高校時代の同級生である3人のボーイフレンドが仙台に住んでいて、よく皆で遊んでいます。人生って苦あり楽ありだけど、苦の方が少し多いかな？でも好きなように生きていきたいですね。



同じ立場の方たちと助け合いたい  
阿部 恵さん

震災後に起業し、「楽つみ木広場」という積み木のワークショップや、暗がりでも光る蓄光糸など特殊な糸の卸しをしています。借り上げ民間賃貸住宅に住んでいると、得られる情報が少ないと感じます。そういう同じ立場の方と協力して、蓄光糸を利用した商品開発をしていきたいです。

親父の力でふるさと再生を！  
相澤 竹浩さん

震災後も継続している若林区の東六郷フェスティバルで、去年は「親父の会」によるおやじカレーが復活しました。これが好評でうれしかったです。子どもたちに「また食べたい」って言われたから、親父たちは張り切りましたよ。これからも東六郷の地域活性化に親父パワーで頑張ります。



心もからだも健康で頑張ろう  
成澤 しげさん

石巻市から息子の住む泉区館に来てもうすぐ3年になりますが、ご近所の皆さんには買い物などでたいへん助けられています。今、一番の楽しみは石巻のカラオケ仲間と歌うことです。お世話になった方々には、いつの日かお会いして昔話をしたいですね。

郷土を愛する皆さんに幸せを  
川下 政一さん

再来年頃になるとと思いますが、宮城野区岡田に自宅を再建する予定です。私を含めて沿岸周辺にお住まいだった皆さんは根強い地元志向があります。ここが良いから(区外に)出ない…、少しでも住んでいた場所の近くに移りたい…。そんな郷土愛溢れる皆さんたちが少しでも早く希望の場所に住めることを願っています。



地元の方や趣味仲間との交流を楽しむ  
遠藤 福治さん

息子夫婦の住む泉区八乙女にマンションを購入し、妻と暮らしています。今のご近所との交流はまだほとんどないですが、地元の宮城野区蒲生の皆さんとお付き合いは続いています。幸せなのは趣味があることと健康なこと。83歳になりますが、週3日はグラウンドゴルフを楽しんでいます。

友人たちの存在が心の支えに  
島田 鶴子さん

震災後、友人から安否を気遣う連絡がたくさん届き、「私はひとりじゃない」と感じました。とても心強くて、ありがたかったです。復興公営住宅を希望していますが、土地勘のない地域には行きたくないという思いがあります。方向音痴なので何かあった時に逃げられないのではないかと不安なんです。



焦らずゆっくりと歩いていきます  
鈴木 勉さん

宮城野区蒲生から泉区鶴が丘に来ました。地元では野球仲間と飲み会など楽しんでいました。現在は、休日に双子の女の子の孫を預かることが多く、にぎやかに過ごしています。あと2年くらいこちらで生活して、その後は宮城野区田子へ移る予定です。体が続く限り仕事を続けませんとね。

生活が落ちつく一方、将来に不安  
増田 昌子さん

津波被災ではないから仮設住宅に入れないと思っていたので、借り上げのNTT三神峯社宅に入れた時は、うれしくて天にも昇る気持ちでした。社宅の皆さんはいい方たちばかりで、このままずっと住み続けられたらうれしいんですけどね。今は、ここにあと何日いられるのだろうかと不安です。



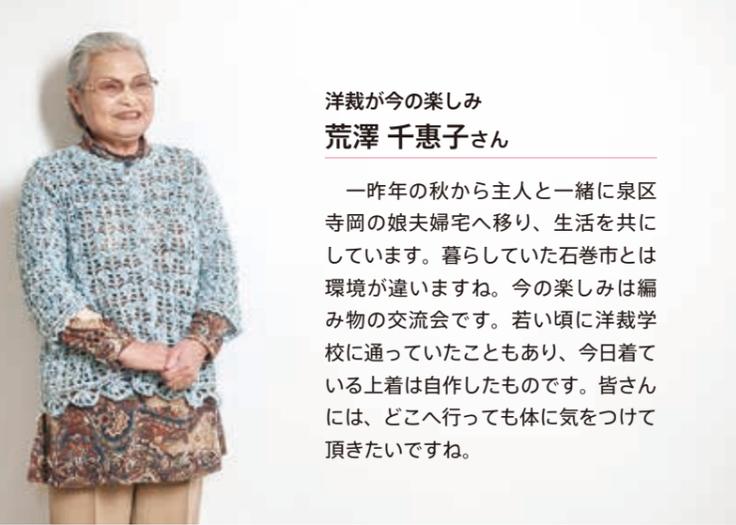
私たちにとっての復興へ  
小野 稲美さん (右)  
はつのおさん (左)

若林区荒浜石場の家は、災害危険区域となり取り壊しました。しかし、後に危険区域からはずれ、リフォームすればまだ住めた家を壊してしまったと悔しい思いをしました。今後は集団移転する娘と、孫、ひ孫と4世代で暮らす予定です。皆で新しい家に住むことが私たちにとっての復興です。

希望を持って生きていきたい  
平賀 道子さん

私たちの家族は、復興公営住宅に入ろうと思っています。実は現在ネコを親戚に預かってもらっているんですよ。なのでネコが飼える住宅だとうれしいですね。全ては元通りにはならないけど、これからも希望を持って生きていきたいです。





洋裁が今の楽しみ  
**荒澤 千恵子さん**

一昨年の秋から主人と一緒に泉区寺岡の娘夫婦宅へ移り、生活を共にしています。暮らしていた石巻市とは環境が違いますね。今の楽しみは編み物の交流会です。若い頃に洋裁学校に通っていたこともあり、今日着ている上着は自作したものです。皆さんには、どこへ行っても体に気をつけて頂きたいですね。

子どもの未来を最優先に  
**中野 諭さん**

石巻市で被災しましたが、子どもの教育環境を考え仙台市にきました。再建の見通しはまだ立っていません。娘の通う小学校を基準にしながら、復興公営住宅への入居を希望します。とにかく子どもの未来を最優先に選択していきたいです。

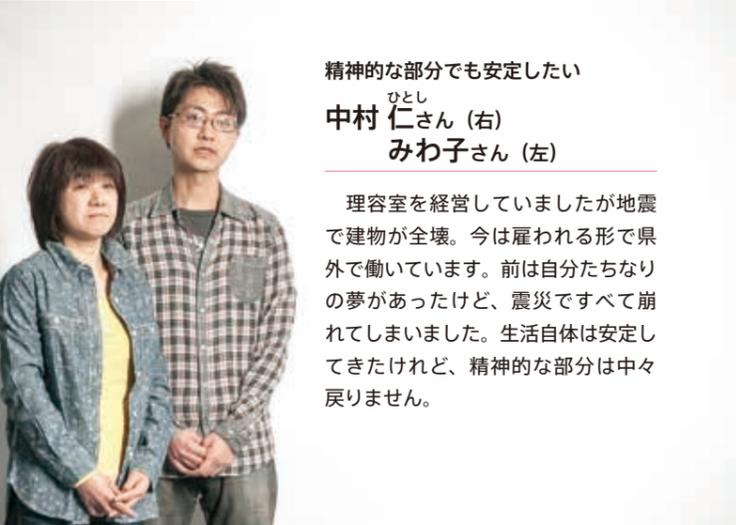


なるべく外に出て交流をもとう  
**平山 正己さん**

宮城野区中野で被災し、その後は青葉区みやぎ台の次女宅で暮らしています。知る人がなく家にこもった時もありましたが、グラウンドゴルフなど、努めて外出するようにしています。元のように戸建で再建したかったけれど、金銭的に難しいので田子の復興公営住宅で新たな生活を始めます。

仲間との交流で日々を明るく  
**米倉 美由紀さん (左)  
半澤 トヨ子さん (右)**

心労が重なり救急車で運ばれた時もありましたが、交流サロンや福島県から避難している友人に誘われた体操など、仲間との交流で明るくなれます。(米倉さん) / 10数カ所を“渡り鳥”し、昨年からは仙台市に住んでいます。福島県の皆さんと会えるのがうれしい。マイナスなことを考えないようカレンダーに用事を記入し、外出を心掛けています。(半澤さん)



精神的な部分でも安定したい  
**中村 仁さん (右)  
中村 みわ子さん (左)**

理容室を経営していましたが地震で建物が全壊。今は雇われる形で県外で働いています。前は自分たちなりの夢があったけど、震災ですべて崩れてしまいました。生活自体は安定してきましたけれど、精神的な部分は中々戻りません。

素晴らしい出会いに感謝  
**菊地 ふみ子さん**

若林区荒井7号公園仮設住宅で2代目の自治会長をしましたが、この春、復興公営住宅入居のため役を離れます。転居については、期待がある反面、将来のことを考えると不安な面もありますね。一人でも平気な性分でしたが、仮設生活では人との出会いに恵まれ、救われることが多かったです。

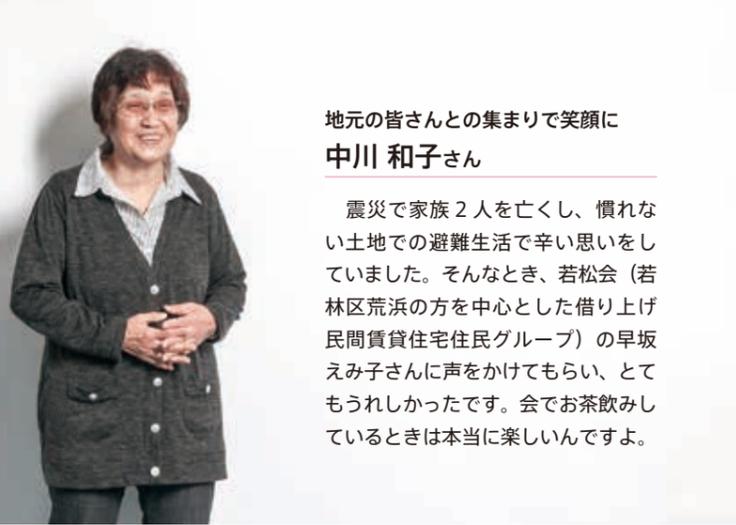


仕事のありがたみを実感  
**金沢 都さん**

震災で宮城野区白鳥を離れ、泉区鶴が丘におります。一人は心細いですが仕事に助けられました。孫が産まれたし、子どもたちの帰省を考えて住まいは中古物件を探したいなあと思います。震災前に趣味が欲しくて始めたフルート教室に今も通っています。落ち込んじゃいられませんね。

娘を頼りに石巻市から仙台市へ  
**江田 廣さん**

石巻市で被災し、太白区東中田に娘がいたので西中田に来ました。津波で妻を亡くし、もうあまり海は見たくありません。自宅が災害危険区域に指定されていることもあって、石巻市に戻ろうとは考えていません。娘の家に近いあすと長町の復興公営住宅に入居できたらいいですね。

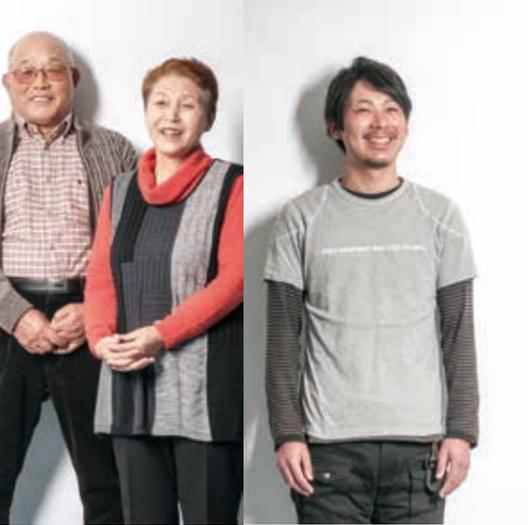


地元の皆さんとの集まりで笑顔に  
**中川 和子さん**

震災で家族2人を亡くし、慣れない土地での避難生活で辛い思いをしていました。そんなとき、若松会(若林区荒浜の方を中心とした借り上げ民間賃貸住宅住民グループ)の早坂えみ子さんに声をかけてもらい、とてもうれしかったです。会でお茶飲みしているときは本当に楽しいですよ。

野菜を食べて元気に前向きに  
**小野 福治さん (左)  
小野 きく子さん (右)**

震災の翌日には、宮城野区高砂にある自己所有のアパートに移り、今は隣の部屋に息子夫婦と孫が住んでいます。家庭菜園で野菜づくりに励んでいます。私たちのモットーは「野菜を食べて健康に生きること」。とにかく元気で前向きに生きていけば、きっと「良かった」と思えることがあるはずですよ。

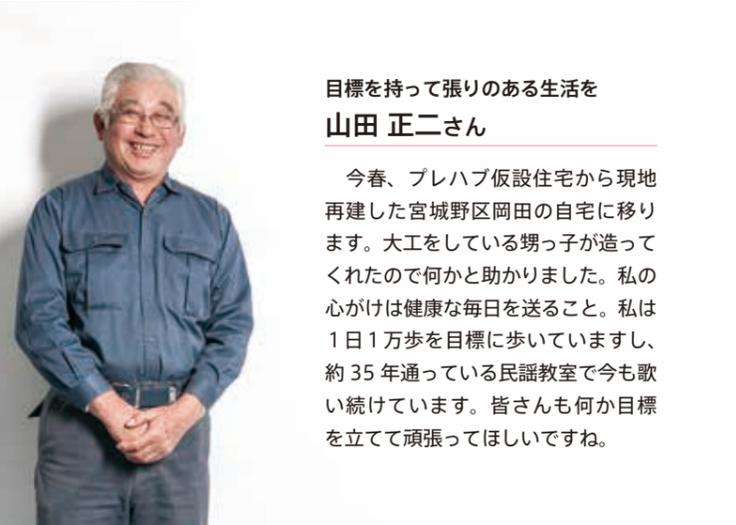


支援してくれた人々に感謝  
**佐藤 一貴さん**

バイクウェアショップ開店のために東京から仙台市へ。開店資金のローンを払い始めた直後に震災に遭い店は全壊しましたが、多くの人たちの支援で半年後には営業を再開できたことに感謝しています。再オープンを復興の一助にしたいです。

花を愛で、命の大切さを思う  
**遠藤 裕子さん**

宮城野区岡田で現地再建しました。昨秋庭に植えたチューリップや水仙が咲くのが楽しみな春です。また、地域の女子会に毎月参加するのもうれしい用事です。もし震災が起きた日時が違ったら、自分もどうなっていたか分からない。せつかく生かされた命なんだから大事に生きなきゃと思います。



目標を持って張りのある生活を  
**山田 正二さん**

今春、プレハブ仮設住宅から現地再建した宮城野区岡田の自宅に移ります。大工をしている甥っ子が造ってくれたので何かと助かりました。私の心がけは健康な毎日を送ること。私は1日1万歩を目標に歩いていますし、約35年通っている民謡教室で今も歌い続けています。皆さんも何か目標を立てて頑張ってくださいね。

外に出て歩くことが気分転換  
**小野 よし子さん**

息子家族と泉区上谷刈の借り上げ民間賃貸住宅で暮らしています。半年位引きこもっていたけど、誘われて参加した交流会が良かった。外を出歩くと気持ちが晴れます。「鳴瀬サロン」は故郷の皆が一番多く集まる場。来られる人は足を運んで、懐かしい話をしたいね。これが一番の楽しみなの。



新天地で家族の絆を紡ぐ  
**瀬戸 信男さん (右)  
瀬戸 納美子さん (左)**

青葉区上愛子で息子と一緒に再建しました。震災の年、娘が初孫の夏陽を出産し、私たち家族に大きな希望を与えてくれました。当初は被災した宮城野区蒲生近辺での再建を考えていましたが、孫の成長をそばで見たいという強い思いと愛犬との暮らしのため、愛子に永住を決めました。

支援いただいた皆様へありがとう  
**相澤 多美子さん**

震災から数ヶ月間は避難所の受付係として毎日忙しかったですが、この体験から人とのつながりの大切さを実感しました。若林区三本塚の自宅に戻ったら大好きなお花やお野菜を育てたいですね。でも私、虫が大の苦手なんです。大丈夫かしら…。





子や孫が納得する環境を残したい

ただし  
**佐藤 匡さん (左)**  
**みよさん (右)**

昨年末に宮城野区岡田に2階建ての家を建てて、子や孫などとともに7人で生活しています。私たちは、いろんな方々のご支援によって普段通りの生活を取り戻しましたが、今後再建される方は、場所・建物の規模などは孫の世代にまで関わる問題という意識で、納得するまで話し合っ

このつながりを未来まで  
**佐藤 隆さん**

若林区七郷中央公園仮設住宅の自治会長をしています。ここで出会った人たちとの縁を大切に、この先も年に1度は仮設同窓会なんかをやりたいですね。個人的に、今楽しみなのは間近となった7人目の孫の誕生。そして、89歳になる母が健康であることに感謝して暮らしています。



母校に感謝！思い出はいつまでも  
**新妻 直美さん**

あたりまえですけど、この3年間は、子どもたちのことを一番考えていますね。私も子どもたちも若林区の東六郷小学校の卒業生ですから、同窓会とか大人も参加できるイベントがあるとうれしいですね。きっと、皆さん喜んで集まると思います。



古くからの知り合いを心の支えに  
**星 久男さん**

現在、妻と2人でプレハブ仮設住宅に住んでいますが、移転を考える際、かつて住んでいた宮城野区蒲生の方々と新たな場所で、もう一度近所付き合いしたいというのが私の夢です。古くからの知人の存在は心の支えになりますし、皆と共に健康な毎日を過ごすことが一番大事なことでと思っています。



いつの日か地元へ  
**安藤 光子さん**

震災前は石巻市に住んでいました。仙台市に来てからは、交流サロンや、健康体操などに参加しています。おかげさまで新しい友人もでき、旧友との偶然の再会もありました。今は近所の施設でボランティアなども行い、毎日が充実しています。でもいつかは地元に戻りたいと思いますね。



皆で健康的に楽しめよう  
**川名 清さん (左)**  
**和賀子さん (右)**

3年前、石巻市から宮城野区新田に移ってきましたが、同区田子の復興公営住宅に入居することになりました。支えあいセンターのサロンで知り合った人たちと立ち上げた「らくらく健康クラブ」の代表(清さん)と会計(和賀子さん)を務めています。皆が集まって楽しむことが健康的な生活に繋がると感じていますね。



憧れの消防士になるため猛勉強中  
**佐藤 諒さん**

被災当時は大学生。被災地で活躍していた消防士の勇姿に背中を押され、公務員試験を受けましたが…。願いは叶わず海上自衛隊へ。どうしても夢が諦められず昨年除隊し、消防士になるため猛勉強しています。応援してくれる両親に感謝です。



ボランティア活動に尽力したい  
**熊谷 康子さん**

震災後に体調を崩し、10年ほど前から続けていたボランティア活動を休んでいました。手術を受け、ようやく体力が戻ってきたので、活動に復帰し始めています。今後はお世話になっている支えあいセンターのサロン活動のお手伝いもしていきたいです。



新しいコミュニティをつくりたい  
**片桐 勝二さん**

来年の春以降に宮城野区田子西に新居を構える予定です。この地区に、今後も多くの方が移ってこられると思いますが、中には新たな土地への移転に不安を感じる方がいるかもしれません。でも、先に住む我々が住みやすい環境、コミュニティを構築し、皆さんを待ってたいと思います。



新しい生活のために解体を決意  
**鈴木 祐司さん**

宮城野区蒲生の新築3年目だった自宅は、津波で被災。サーフィンが趣味で、海の近くに住み続けたかったのですが、災害危険区域に指定されたこともあり解体を決意しました。協力して頂いた方々には、申し訳ない思いでいっぱいです。



カラオケ仲間との付き合いが楽しみ  
**須藤 トメノさん**

震災後、泉区鶴が丘に住まいを求めて暮らし始めました。若い頃、嫁いだ南三陸町の海や麦畑、桃の花の美しさに感動して間もなく、チリ地震津波に襲われました。大津波は今回で2度目です。今の楽しみはカラオケ教室。その仲間と歌ったり旅行にも行きます。今までは仕事一筋だったから、これから楽しまないとね。



同郷の皆さんとの交流に感謝  
**杉 津欄子さん (左)**  
**門馬 泰子さん (右)**

毎月青葉区の福島交流会で皆さんに会って食事をしたり、旅行をしたり、それぞれの地域情報を交換し合ったりするのが楽しみです。(杉さん) / 仙台市に来て間もなく、行政の方が助めてくださった、青葉区通町ストレッチ教室の皆さんに感謝しています。同郷の人たちと一緒に活動できるのがうれしいです。(門馬さん)



新たな人のつながりに感謝  
**西田 友子さん**

青葉区の国家公務員住宅で、仮設住宅自治会「川内清流の会」の役員をしています。主催のサロンに参加していると、人のつながりに感謝する毎日。震災は確かに不幸でしたが、それをきっかけに始まった交流を大切にしたいです。



前向きに頑張っています  
**佐藤 真由美さん**

震災後に石巻市から仙台市へ移り、借り上げ民間賃貸住宅で生活しています。希望する復興公営住宅入居が叶わず残念に思いました。今は趣味で歌の教室に通っています。石巻市の避難所では皆さんの取りまとめ役をしていたのですが、その時の仲間とは今後も付き合いを続けていきたいですね。



夫婦2人で穏やかな日々を送る  
**猪狩 友衛さん (左)**  
**清子さん (右)**

福島県の自宅に戻りたい気持ちはありますが、何年後になるか見通しが立ちません。愚痴を言えばキリがないので、残された人生、夫婦2人でゆっくり歩いていきたいと思っています。仙台市に来てから出会う皆さんはいい方たちばかりで、親切にいただいています。ありがたいですね。



もう一度、皆の顔を見たい  
**山本 八重子さん**

震災前は、私のお店に学校帰りの子どもたちが集まってきて、楽しそうにお菓子やカップ麺などを食べてワイワイはしゃいでいました。宮城野区蒲生は災害危険区域に指定されているので、いずれ移転しなければなりません。でも、新たな移転先でまたお店をやりたいな。皆の顔をもう一度見たいからね。



# 被災地レポート

取材地

## 東松島市エリア／岩沼市エリア

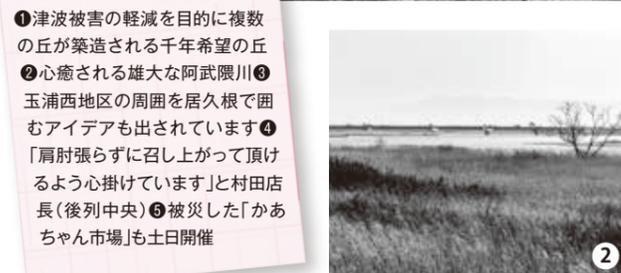
### 東松島市 エリア



①宮戸島月浜。昨年には海水浴場をオープンしました②野蒜側の高架橋工事。外観は景観との調和が考慮されています③月光代表の山内さん(前列中央)とメンバーの皆さん④看板スタッフの米倉優さん(右)が楽しいトークでお迎えします⑤イグナルファーム代表の阿部聡さん



### 岩沼市 エリア



①津波被害の軽減を目的に複数の丘が築造される千年希望の丘②心癒される雄大な阿武隈川③玉浦西地区の周囲を居久根で囲むアイデアも出されています④「肩肘張らずに召し上がって頂けるよう心掛けています」と村田店長(後列中央)⑤被災した「かあちゃん市場」も土日開催

仙台市外から避難されている方の

## 交流サロン

### みやぎ・いわて沿岸部交流会

主催/青葉区家庭健康課

- 5月26日(月)10:00~12:00
- 青葉区役所2階 機能訓練室(青葉区上杉1-5-1)
- 対象/宮城県・岩手県沿岸部の市町村から避難・転入された方
- 内容/茶話会、体操など
- はじめて参加される方は要申込(電話)
- 問・申込/青葉区家庭健康課  
TEL:022-225-7211(内線6785)

### 鳴瀬サロン

主催/鳴瀬サロン

- 4月12日(土)、5月10日(土)10:00~12:00
- 青葉区中央市民センター(青葉区一番町2-1-4)
- 対象/東松島市鳴瀬地区で被災された方
- 内容/4月12日はフラダンス、5月10日は内容未定
- はじめて参加される方は要申込(電話)
- 問・申込/鳴瀬サロン事務局  
TEL:080-5562-9218(高橋)

### 名取市常設サロン

主催/名取市サポートセンター「どっとなとり」

- 月~金曜日 9:00~16:30
- 柳生サロン(太白区柳生4-3-12 ハイツリュミエール104号室)
- 対象/名取市で被災され、借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方、住宅を再建された方
- 内容/各種イベントを実施。詳細は要問い合わせ(参加無料)
- 申込不要
- 問・申込/柳生サロン  
TEL:022-797-2017

### ふくしまほっこりカフェ

主催/ふくしまほっこりカフェ実行委員会

- 毎週火曜日 10:00~12:00
- ハート&アート空間 ビーアイ(青葉区立町20-11 ミカミハウス2階)
- 対象/福島県から避難されている方、福島県に思いを寄せている方
- 内容/茶話会など(参加無料)
- 毎月第4回は「みんなで作ってほっこり食堂」(参加費500円)
- 前日まで要申込(電話・FAX・メール)
- ※子ども参加の場合は人数と年齢を明記
- 問・申込/ハート&アート空間 ビーアイ  
TEL:022-262-2969  
FAX:022-262-2975  
メール:zoukabako@gold.ocn.ne.jp

### きびたん'sいずみ

主催/一般社団法人マザー・ウイング、のびすく泉中央

- 4月18日(金)10:30~12:30
- のびすく泉中央4階 活動室(泉区泉中央1-8-6)
- 対象/震災で福島県から転入してきた乳幼児親子
- 内容/お楽しみイベント(参加無料)
- 定員/12組 要申込(電話または直接)
- 問・申込/のびすく泉中央  
TEL:022-772-7341

市北部が仙台空港、南部が阿武隈川②に接する岩沼市。東部の浸水被害区域が合併前の旧玉浦村とほぼ重なることから、旧玉浦村住民である被災された方々の結束の強さが、地区内の集団移転地選定、復興事業の迅速さに反映されてきました。被災住民主体のまちづくり検討委員会では、被災六地区の集団移転地である玉浦西地区③のまちづくり方針や土地利用計画を協議。東日本大震災の被災地で初めて認可された防災集団移転促進事業として、昨年末には移転区画西側に相野釜地区の移転希望者へ土地引き渡しが始まり、この春には全区画が引き渡されます。空港近くで被災し、桜五丁目の国道四号線沿いに移転、二〇一二年九月に再開した「美弥まこと寿司」④。被災直後は閉店を考へるも「お世話になったお客さんに励まされ、岩沼での再開を決意しました」と村田店長。お薦めは寿司会席です。

震災時、丘の上に避難した三名が助かった事例を基に、整備が進められている「千年希望の丘」①構想。津波の力の減衰のほか、再生可能な震災廃棄物を活用した丘築造により、震災の記憶や教訓の発信にも役立つ緊急避難場所です。丘へは植樹も行われ、沿岸部に起伏ある緑の潤いが造られます。五月末の植樹祭は全国からボランティアが集まる見込みで、二〇一五年度までに六基造られる予定です。玉浦地区に暮らす若い世代と高齢世代を繋ごうと、昨夏にオープンした「みんなの家」⑤を拠点に活動するのは、「がんばっ!!玉浦」の方々。笑顔溢れるまちづくりを目指し、体験型行事を企画するほか、地場産野菜の商品開発と販売もしています。「相野釜ではメロンの栽培が再開。伝統野菜の玉浦白菜を復活させる動きもあるし、沢山の人にここを知ってもらいたい」と副理事長の氏家さんです。

### 人の力が地域の活力へ

奥松島の宮戸島①の月浜では、被災した漁師たちで結成されたノリ生産者グ

ループ「月光」③が漁期終盤を迎えていました。多くの支援に支えられノリ養殖を再開した月光では、三年目を迎える今年、「月光とともに月浜を盛り上げ、支援者に恩返しをしたい」と代表の山内良裕さん。ノリ生産に加え、地域観光の復興も目指しています。グリーンタウンやも仮設住宅内の仮設商店「いなショップ・グリーン」④は、食料品、日用品の取り揃えに加え軽食コーナーもあり、利用者の憩いの場となっています。また、仮設住宅内での配達を行うなど、入居者に寄り添ったサービスを心がけています。「イグナルファーム」⑤は、四人の若手農家が立ち上げた農業法人。「強い一次産業を目指していきたい」と代表取締役の阿部聡さん。世界市場を視野に、企業や農業団体と連携しながらさまざまな取り組みを進めています。「復旧ではなく、新しいまちをつくりたい」と地域への思いも教えてくれました。

### 玉浦西地区を終の棲家に

### 楽しく玉浦を活性化!

# 続ける支援

## アスイクの学習支援

「こんばんはー!」。今年二月、寒さが身に染みる十九時ごろ。暖房の効いた宮城野区扇町一丁目公園仮設住宅の集会所に、子どもたちが元気に挨拶をして入っていきます。ランドセルやかばんを下ろし、いつものテーブルに教科書やノートを広げま



開始時間を待ちきれずやって来た子との、和やかな語らいのひととき

す。「宿題持ってきた?」「うん!」。子どもたちの隣や向かいに大学生や社会人が腰かけ、楽しそうに話し始めました。仙台市のNPO法人アスイクが、毎週市内の仮設住宅などで行っている学習支援の時間です。

「明日のために、子どもたちに『教育』を」。震災後、そんな思いから生まれたアスイク。避難所での学習支援からスタートし、被災された方々の生活場所がプレハブ仮設住宅や借り上げ民間賃貸住宅へ移った後も、長期的な支援を目指して活動を続けてきました。

現在は、仮設住宅での学習支援のほか、eラーニングを活用した教室を被災三県を含めて十七カ所に設けるなど、経済的事情で学ぶ機会や社会とのつながりを失っている子どもへの学習支援にも力を入れていま



仮設住宅の集会所を広々と使い、子どもたちはサポーターと意思的に勉強に励みます

東日本大震災から丸三年。今、さまざまなかたちで支援を続けている方々がいま。支援を続ける方々は、どんな思いで活動しているのでしょうか。被災地で取材を続ける情報ボランティア@仙台の大学生記者が取材しました。

では、毎週水曜日、五人のサポーターが七人の子どもたちと勉強に取り組んでいます。子どもたちは、上は高校一年生から下は小学三年生まで年齢も性別もさまざま。宿題を持ってくる子もいれば、英検の勉強をする子もいます。

「ねえねえ、さきちゃん。ここ教えて!」これはね、少数点の位を変えてね……。さきちゃんと呼ばれたのは、一年半前からこの仮設住宅でサポーターとして学習支援を続けている、宮城教育大学二年の大竹沙希さん。宿題のドリルを解く五年生と六年生の女の子に、解き方のコツをアドバイスします。

「うまく伝えられないこともありますが、いつも楽しく勉強しています」。大竹さんは目を細めます。子どもたちが「先生」ではなく親しげに名前と呼ぶ様子は、心の距離の近さを感じさせました。

を感じさせました。

十九時から二十時までの学習時間は、勉強をするだけではありません。学校の話、好きなスポーツの話、将来の話。たくさん言葉を紡ぎながら、さらさらと話をすると子どもたちの表情に、サポーターも思わず笑みがこぼれます。

ドリルを解いていると、「さきちゃん、さきちゃん」と、大竹さんと呼ぶ声がありました。「どうしたの?」「これね、友だちがお土産でくれたの!」「バレンタインにチョコつくったんだよ!」「へえーそうなんだ!」。大竹さんは、ひとつひとつの言葉に、丁寧に応えていきます。



英語の試験勉強に熱が入ります



一生懸命に問題を解く子に、温かいまなざしを注ぐサポーター

「いろいろな会話や交流を通じて、ひとりひとりを尊重した、その子たちの自己表現の場をつくりたい」。同仮設住宅での学習支援・現場リーダーを務める、宮城教育大学二年の武石墨さんは話します。「子どもたちがこれからのしっかり生きていくサポーターができればと考えています」。

一年半前に、大竹さんと一緒にアスイクのサポーターとなった武石さん。大学入学当初から、被災地のために、何か役に立てることができないかと、考えを巡らせていたそうです。そんなとき、アスイクの活動に携わっていた友人に紹介され、その

活動理念に共感し、参加を決めました。

現場のリーダーを任せられるようになったのは、サポーターになってまだ一カ月足らずのころだったといいます。不安もある中、一回一回の学習支援の積み重ねによって、子どもたちや活動を共にするほかのサポーターとの関係を深めていきました。

そんな結び付きの強さを支えるのが、振り返りの時間です。振り返りは、その日の学習支援が終わったすぐ後に行われ、子どもたちの様子について、サポーター同士がじっくりと話し合います。子どもたちに寄り添い、思いやる心を、サポーター全員で共有する大切なひとときです。

ひとりひとりに気を配るからこそ、子どもたちから学ぶことも少なくありません。「向き合う大切さを学ばせてもらいましたね。初めて『楽しい』と言われたときは、本当にうれしかったです」と、頬を緩める武石さん。

「最初はすごく緊張して入ってきた子も、しばらくすると皆との会話に打ち解け、いろんな表情を見せてくれるようになるんですよ」。穏やかで、あたたかい時が流れるアスイ

クの学習支援。学校の勉強だけでなく、友だちやサポーターとの心の触れ合いもまた、子どもたちの成長の一助になっています。



学習時間の合間、生徒の話に熱心に耳を傾ける武石さん

### 学習支援日程 (場所は全て仮設住宅)

- JR南小泉アパート 毎週月曜 18:30~19:30
- 仙台港背後地6号公園 毎週火曜 19:00~20:00
- 鶴巻1丁目東公園 毎週水曜 19:00~20:00
- 扇町1丁目公園 毎週水曜 19:00~20:00
- 荒井小学校用地 毎週木曜 19:00~20:00
- 卸町5丁目公園 毎週金曜 19:00~20:00

アスイクの学習支援に参加したい方は、事務局までご連絡を。見学は自由です。

**NPO法人アスイク事務局**  
所在地: 宮城野区榴岡5-3-21コーポ小松101  
電話番号: 022-781-5576 e-mail: info@asuiku.org  
代表理事: 大橋雄介

取材: 遠藤柊子@東北大学大学院、下澤大祐@東北大学

## ごあいさつ

震災復興 地域かわら版「みらいん」は、復興に向かう仙台市東部沿岸地域の現在の様子、仮設住宅でのコミュニティづくり、生活再建に資する情報などをお届けするために、2011年12月に創刊しました。「みやぎの版」「わかばやし版」「たいはく版」を月1回発行し、これまでに28号をお届けしてきました。

今号は、住まいの再建の場となる移転先宅地や復興公営住宅周辺の地域情報、新たなコミュニティの創生というテーマも含めた形で、仙台市全域版の「みらいん」をお届けします。

次の一步を踏み出すための情報紙として。応援の言葉を見つける冊子として。またはほっとひと息つく時の読み物として…。本紙が少しでもお役に立てれば幸いです。

「みらいん」編集部一同



### 震災復興 地域かわら版 みらいん [29号]

2014年3月31日発行

発行  
仙台市

企画・編集

協同組合みやぎマルチメディア・マジック

岡崎裕子  
熱海奈穂子/鉦鹿大輔/菊地明彦  
齋藤孝之/佐々木聡/佐藤有希  
金子秀樹  
芳賀幸子

印刷

ハリウ コミュニケーションズ株式会社

協力

河北新報社

特別協力 (五十音順、敬称略)

岩沼市役所/岡田小学校/支えあいセンター  
通町はつらつストレッチサークル/東松島市役所

お問い合わせ

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 2-12  
「みらいん」編集部  
Tel.022-390-5755 Fax.022-390-5756  
kawara@mmmm.or.jp

## 表紙のひと

（左より）**鈴木想世**ちゃん **我妻輝**くん

震災時に想世ちゃんの出産を控えていた母親の智子さんは、宮城野区岡田で被災しました。しばらくは、自らが助かった一方で、犠牲になった方に対する申し訳なさや津波への恐怖心、先が見えない日々の生活で泣いてばかりいたと言います。「穏やかな気持ちでいたかったのに、子どもに影響が及ばないと良いなあ」と心配するも、それは杞憂でした。2011年8月に誕生した想世ちゃんは、穏やかな気持ちのある子に育っています。「周りをよく見ていて大人な面がある子なんです。思いやりのある子に育てたい」と願っています。

輝くんは2011年の2月生まれ。母親の幸子さんは出産ひと月後に震災に遭いましたが、子育て面での苦労は無かったと言います。宮城野区蒲生の自宅は被災、借り上げ民間賃貸住宅を経て蒲生へ戻って暮らしています。その中で大きいのは、家族や周りを明るくする輝くんの存在です。「沢山の人の助けられたので、子どもには人の役に立つ仕事に就いて欲しい」と、わんぱく盛りの輝くんを忙しく目で追う幸子さんです。

震災から3年で大きく成長した子どもたちの今後が楽しみです。

撮影場所/宮城野区岡田児童館。震災直後、職員は同敷地内の避難所である岡田小学校へ出向き、避難している子どもたちに本の読み聞かせなどをしました。

## 読者から ひとこと

読者の皆さんが普段何気なく思っていることをはじめ、皆さんからのお知らせをお届けするコーナーです。お茶飲みしながら、のんびり読んでください。

● 四月二十日(日)十三時から宮城野区高砂市民センター二階会議室で、和町町内会の総会を開きます。同じくふるさとへの皆さんの顔を見がてら、ぜひお越しください。和町町内会役員より

● 中野小二二年になるんだけど、同級生が七人いて女の子は私だけなの。だから、放課後にプレハブ仮設住宅に帰って来てから友だちの楓ちゃん(かき)と遊ぶのが楽しみ。今はヒーローごっこをよくしていて、私が好きなのはヤッターマン。  
山本せなちゃん

● 借り上げ民間賃貸住宅に入って三年。母親もまだプレハブ仮設住宅で、なかなか前のような生活には戻れない。でも、仕事があるから気持ちを切らさずに頑張っているし、夢も持ってるんだよ。  
本田洋一さん

● 女川町で被災し、今は泉区の借り上げ民間賃貸住宅でお世話になってます。地元に戻りたい

● 体調を崩し昨年まで入院していたので、交流サロンなどに足を運んだことはありませんでした。先日初めて参加したら、多くの方と触れ合えとても楽しかったです。これからもどんどん利用したいです。  
杉山知美さん

● 震災前後の若林区荒浜の風景を収めた写真の展示を、四月十五日(火)から二十六日(土)まで二コンプラザ仙台(アエル二十九階)で行います。また、現地荒浜でも写真の屋外展示を行っています。  
佐藤豊さん

● 気持ちがありました。女川町の災害公営住宅の入居開始が数年後ということ、仙台市に転居することに決めました。八十歳過ぎて、そんなに待ってられないですもの。  
鈴木典子さん



佐藤豊さん

構造	特徴
木造	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材は鉄やコンクリートに比べて軽いので、建物の自重が軽く地盤への負担が少ない。</li> <li>加工が容易でフレキシブルな間取りに対応できる。→完成後の増改築がしやすい。</li> <li>腐りやすいので、防蟻・防湿処理が必要。</li> <li>火に弱いので、防火対策と適切な避難計画が必要。</li> </ul> ※一般的な耐用年数は30~50年
鉄骨造	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物重量は、木造と鉄筋コンクリート造の中間。(専用住宅には、主に軽量鉄骨を使用)</li> <li>鋼材は強度が大きく、品質が安定していて比較的安価。</li> <li>火熱に弱いので耐火被覆が必要。</li> <li>錆に弱いので防錆処理が必要。</li> </ul> ※一般的な耐用年数は40~100年
鉄筋コンクリート造	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐火性、耐久性、遮音性に優れている。</li> <li>自由度の高い設計が可能。</li> <li>建物重量が大きいため強固な支持地盤が必要。</li> </ul> ※一般的な耐用年数は50~200年

## 住まいの コラム

### 住宅建築の構造を知ろう!

これから家を建てる方はご家族で家の外観や間取りについて話し合われたと思います。次は、どのような構造の家にしたのかを決めることです。木の香る木造か、丈夫な鉄筋コンクリート造かなど、どのような構造で建てるのが我が家に一番ふさわしいかを考えます。

\*実際の耐用年数は工務店やメーカーにお問い合わせください 監修/宮城県建築住宅センター www.mkj.or.jp



## 岡田地区

七北田川下流の南側に位置する岡田地区。田園が広がる牧歌的な風景、住民の穏やかな人柄から、他所から訪れた人々はこの地を「桃源郷」と称しました。

地区のほぼ中央に位置する岡田小学校は、1873年の開校から140年余り、地域とともに歴史を刻んできました。下段の2枚の写真はともに、運動会の様子です。左は1960年代初頭、右が1970年代。保護者だけでなく、地域ぐるみの応援が行われていたそうです。

左中段は1989年、近隣の方総出で行われた新浜の瀬戸さん宅の上棟式の様子です。近年、省略されることの多くなった祭祀で、この様に大規模で行われることは珍しくなりました。上の写真は式の後の会食、

なおらい直会の様子です。右上段は1968年、嫁入りの様子。友人に囲まれて嫁ぎ先へ向かう花嫁を、温かく出迎える地域の人々が印象的です。

右中段の写真は1960年代中頃、「ダンボさん」の屋号で呼ばれた鍋沼の二瓶家裏の旧塩釜亘理線です。居久根がよしず葦簀で仕切られ、まるで映画のワンシーンのように美しいスナップです。上段中央は、地区を象徴する田園のなか、孫と写る男性の姿。後ろには雑子袋の居久根が見られます。その下の写真は地区の子どもたちで、ともに1960年代中頃に撮影されたものです。

大人も子どもも、地域の皆がつながり合い、自然と共生する岡田地区の様子がうかがえました。

写真提供 瀬戸勲さん、二瓶誠治さん